

O. 骨・関節

-247- 骨シンチグラム像

—— 大腿骨骨頭壊死 (Aseptic Necrosis) について

横浜市大 放

○小野 慈, 朝倉 浩一, 大竹 英二,
伊東乙正, 氏家 盛通, 早勢 英俊

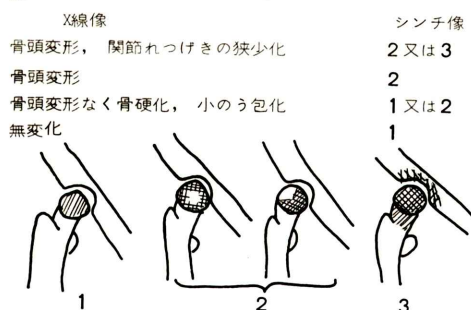
藤沢市民病院 整形外科

鈴木 一太

目的: Aseptic Necrosisは, X線像に所見が現われる前の時期に, シンチグラムで発見できる非悪性難癒性の骨疾患の一つである。潜血病, 放射線照射, 腎不全等, 原因のわかる場合もあるが, 原因不明の特発性であることが多い。病期に応じたシンチグラム像の特徴を見だすとともに, 片側の特発性のAseptic Necrosis患者の経過観察に役立つかを検討する。

方法: Sr-85 (100 μ Cl), Sr-87m (2~4mCl), Tc-99m 多りん酸化合物 (10mCl) を使用, 注射後各々1週間2~4時間, 4~5時間に, 3インチスキャナー (RDA-206型, 37孔, 10cm焦点コリメータ), ガンマーカメラ (GCA-102型, 20Ko平行コリメータ) を用い検査した。昭和45年4月より51年3月までに, Aseptic Necrosisと診断された54人, 80回のスキャン像をX線像と対比し読影した。

結果: X線像と対応したシンチ像は, 1対1の特徴はないが, 円形, 円形を主体として菲薄像のあるもの, 変形性股関節症類似の所見がみられた。



Aseptic Necrosis患者の対側の検討, 片側に病変のあった29人のうち12人につき, くり返し検査を行い, うち1例に対側の異常を認めた。

考察およびまとめ: X線像に現われない時期の変化を骨シンチにてとらえることは症例として少なく, 骨シンチの有用性は, 骨頭内の変化, 包蓋への波及を経時的に観察する事により, 治療方針の決定に役立てる事にあると考える。

特発性症例の対側の管理に使用すれば, X線像の現われない時期に見いだされる可能性は大きいと思われる。

-248- Radionuclide を用いた Transient Synovitis と Perthes 病の鑑別診断法

大阪府立身障センター 整形外科

○黒田晃司, 頼 功, 岡垣健太郎

大阪市大 整形外科

広橋賢次, 岡島幹雄, 神原俊和

夢川 泰, 越川 亮,

大阪市大 放

越智智宏, 浜田国雄, 玉木正男

喜馬病院

種池謙介

目的: 小児の股関節疾患において数週から数カ月で消退するいわゆる単純性股関節炎と, より長期の経過をたどる Perthes 病がある。両者は初期において鑑別し難く, Spock, Jacobs, Kemp, 小松, Salter および Tachdjian は単純性股関節炎の一部において Perthes 病に移行したと考えられる症例を報告している。今日ではこれらのものは一連のものであり, 障害の程度およびそのくり返しによって一部は Perthes 病に移行するという考えもある。臨床上初期においては Transient Synovitis と Perthes 病の鑑別診断は非常に難しく, その決定的な方法は見出し難い。そこで我々は^{87m}Sr および^{99m}Tc-Pを用いて Transient Synovitis および Perthes 病の診断と, その所見の経時的な変化の調査検討を行なってきたので報告する。

方法: 昭和47年4月以後, 当院を受診した3~11才の片側性の Transient Synovitis および Perthes 病について, ^{87m}Sr または^{99m}Tc-Pyrophosphate 100 μ Cl から1mCi 静注し, 1~3時間後に両下肢中間位で股関節を正面から, 両大腿骨頭エピソード部のカウント数の測定を行ない, 同時にシンチグラフィーを施行した。なお, カウントについては健側のカウント数を常に100とし, 患側のカウント数の増減を%で表わした。

結果: 両疾患において, いまだX線像上軟部組織の変化や, 大腿骨頭の外偏のみられない時期でも Perthes 病のうち, 初回測定が発病から1~4カ月以内に行なわれたものでは, 患側値がすべて低値を示した。そして Transient Synovitis の多くでは患者値が高値を示していた。また, Transient Synovitis および Perthes 病でのカウント数の経時的な変化において, その波形は二者において明らかに異った経過を示した。